

令和5年9月20日（水）

「わかる」を「できる」へ変えよう！

授業で先生が言っていることが理解できるという生徒がほとんどだと思います。しかし、実際に問題集やテストなどで解答する段階では、解けなくなっただけで経験はありませんか？実は、「わかる」と「できる」が全く別の能力なのです。

「わかる」とは理解できることです。問題集の答え合わせをしたり、テスト終了後の解説を聞いたりして、なぜそうなるのかを理解できることが「わかる」です。しかし、「わかる」という能力は、受動的、受け身であり、他者から発せられた情報を受け取ることで、発揮される能力です。テストでなかなか結果を出せない人は、この「わかる」段階までしか取り組んでいません。

では「できる」とはどんな能力でしょう？「できる」とは実際に問題を解けることです。問題を解くためには、能動的なアウトプットが必要です。実は、「わかる」段階で勉強が終わってしまっていた人は、この能動的なアウトプット作業が苦手です。

理解はできるけど、実際にやってみるとできないというのが、まさにこの能動的アウトプットが出来ていない状態です。しかし、この状態で苦しんでいる生徒は、理解はできているのであまり危機感をもっていません。

実際、「わかる」と「できる」は全く違います。さて、皆さんの学習スタイルはどうですか？学校で授業を受けた内容を、そのままにしてしまうなんてことはありませんか？勉強とは「できる」ようになることです。以下具体的な学習の仕方です。

- ① まず学習範囲を決めます。
- ② 次に学習範囲を教科書を見たり、先生に質問したりして理解します。学校の授業で理解出来ていれば省略可能です。
- ③ そして、実際に問題が解けるか練習問題を解きます。教科書の例題や補助教材のワークなどがお薦めです。
- ④ そして、実際に「できる」かどうかテストしましょう。そのために問題集や入試問題などを利用することがいいと思います。
- ⑤ 最後に、間違った問題をもう一度やり直しをします。最も大切な作業は⑤だと言っても過言ではありません。「わかる」から「できる」へスムーズに移行するためには、繰り返し何度も反復することが大切です。